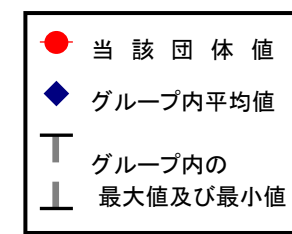


(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

平成30年度

愛媛県

人口	1,381,761	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	1,369,853	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	5,676.24	km ²	実質公債費比率	10.5	%
歳入総額	638,820,473	千円	将来負担比率	150.0	%
歳出総額	620,655,222	千円	グループ	H26 D H27 C H28 C	
実質収支	2,217,802	千円	(年度毎)	H29 C H30 C	
標準財政規模	351,897,534	千円			
地方債現在高	1,034,724,708	千円			

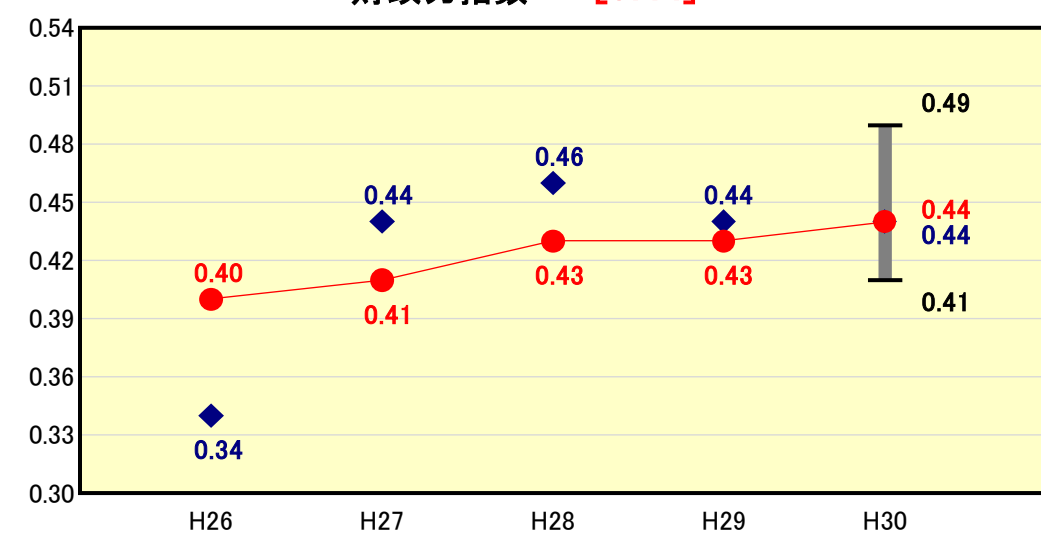


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

財政力

財政力指数 [0.44]

グループ内順位 6/10 都道府県平均 0.52

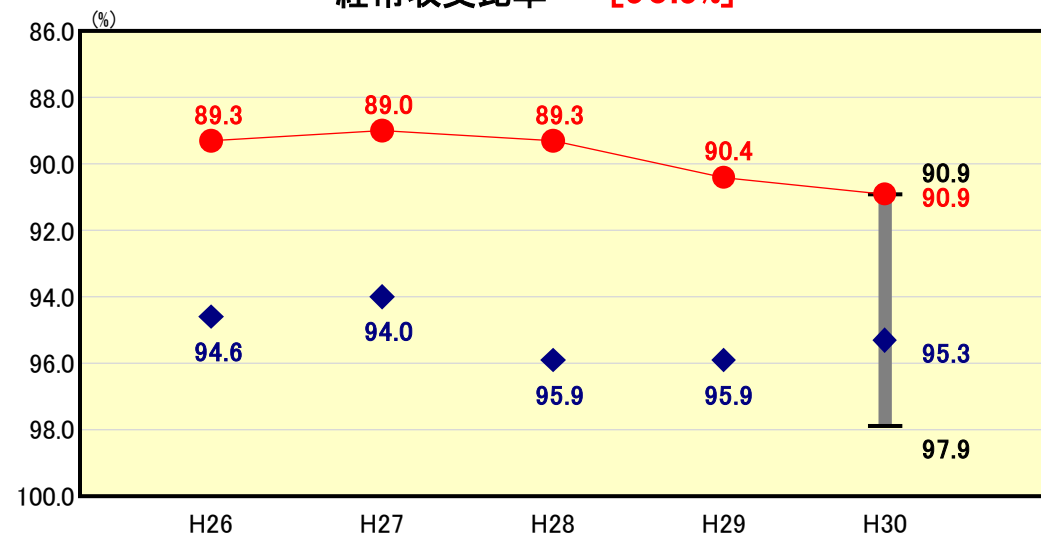


財政力指数の分析欄
 景気の低迷による個人・法人関係税収の落ち込みにより、24年度までは下降傾向にあったが、25年度以降は、企業業績の回復による法人関係税収の増や、税率の引上げによる地方消費税の増などにより上昇している。引き続き、県税滞納額の縮減等による歳入確保と事務事業の徹底した見直しにより、将来の財政負担に配慮した財政運営を行う。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [90.9%]

グループ内順位 1/10 都道府県平均 93.0

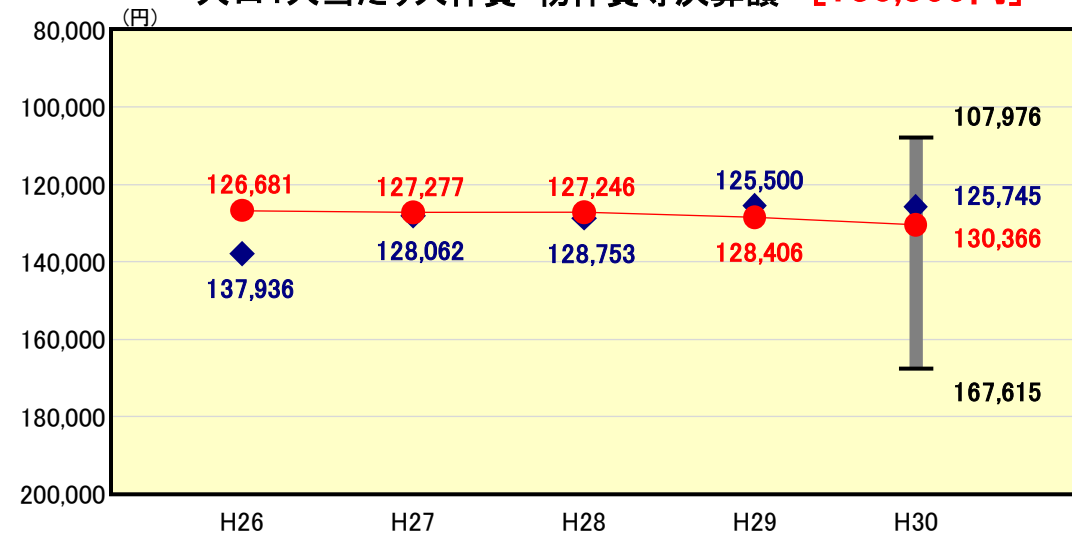


経常収支比率の分析欄
 職員数の減少による職員給の減や、過去の景気対策等に伴い発行した臨時財政対策債を除く地方債の元利償還がピークを越えたことによる公債費の減があるものの、高齢化の進行による社会保障関係経費の増や、30年度にピークとなった退職者数の増により上昇しているが、類似団体の平均は下回っている。今後も県税の滞納整理強化、公債費の適正管理、職員定員の適正化などにより改善に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [130,366円]

グループ内順位 5/10 都道府県平均 109,257

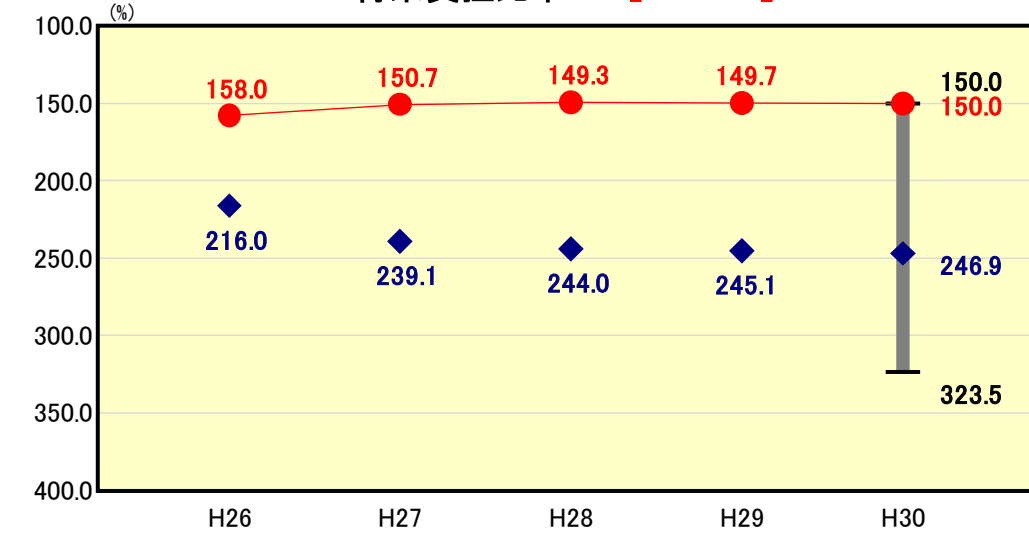


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 定員適正化計画に基づく定員削減や、財政健全化基本方針(H23~R4)に基づく徹底した事務事業の見直しを行っているが、30年度は、職員数の減少による職員給の減といった減少要因がある一方で、人事委員会勧告に基づく職員給与改定や30年度にピークとなった退職者数の増により、増加した。今後も、職員定員の適正化や内部管理経費の削減など徹底した見直しに努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [150.0%]

グループ内順位 1/10 都道府県平均 173.6

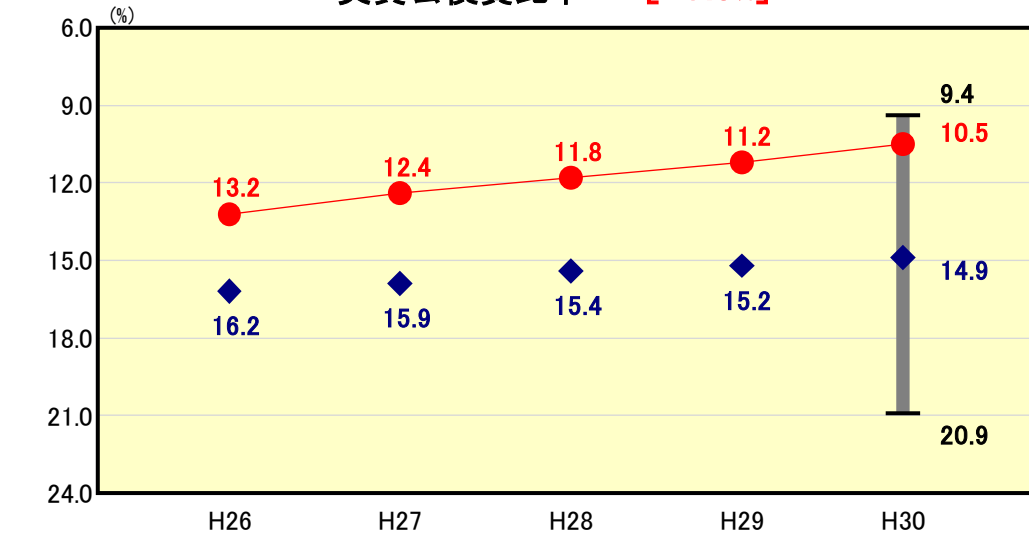


将来負担比率の分析欄
 事業の計画的な執行による建設地方債残高の減少、職員数の減等に伴う退職手当負担見込額の減少などにより改善傾向であったが、30年度は財政調整基金等の減少などにより、比率は微増となった。今後も、将来負担に配慮しつつ地方債発行を行うなど、引き続き財政運営の適正化に努める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [10.5%]

グループ内順位 4/10 都道府県平均 10.9

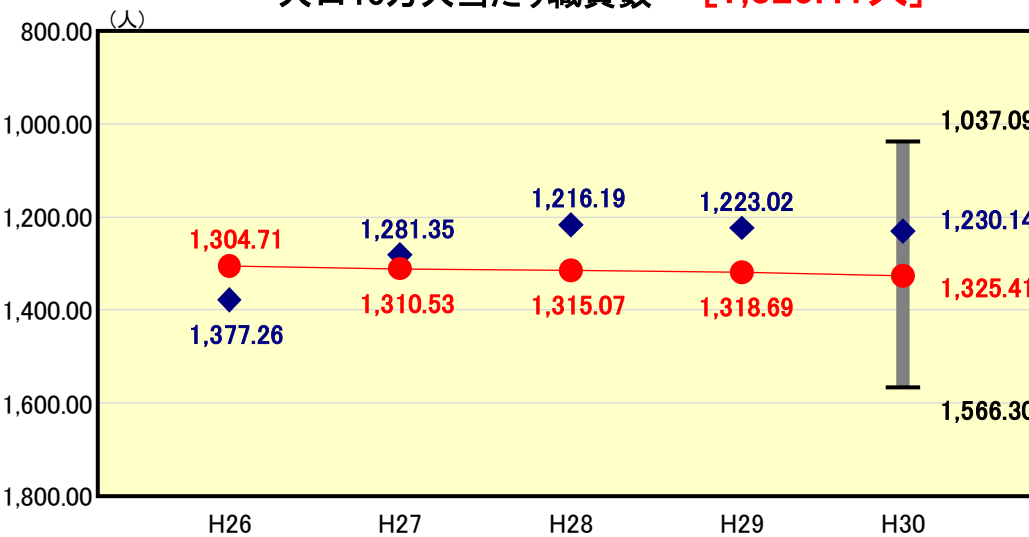


実質公債費比率の分析欄
 過去の景気対策等に伴い発行した臨時財政対策債を除く地方債の元利償還がピークを過ぎたことや、低利の地方債の割合が上がっていることから、比率は低下してきている。今後も、交付税措置のある地方債の優先活用や公債費の平準化により、公債費負担の軽減に努める。

定員管理の状況

人口10万人当たり職員数 [1,325.41人]

グループ内順位 7/10 都道府県平均 1,028.73

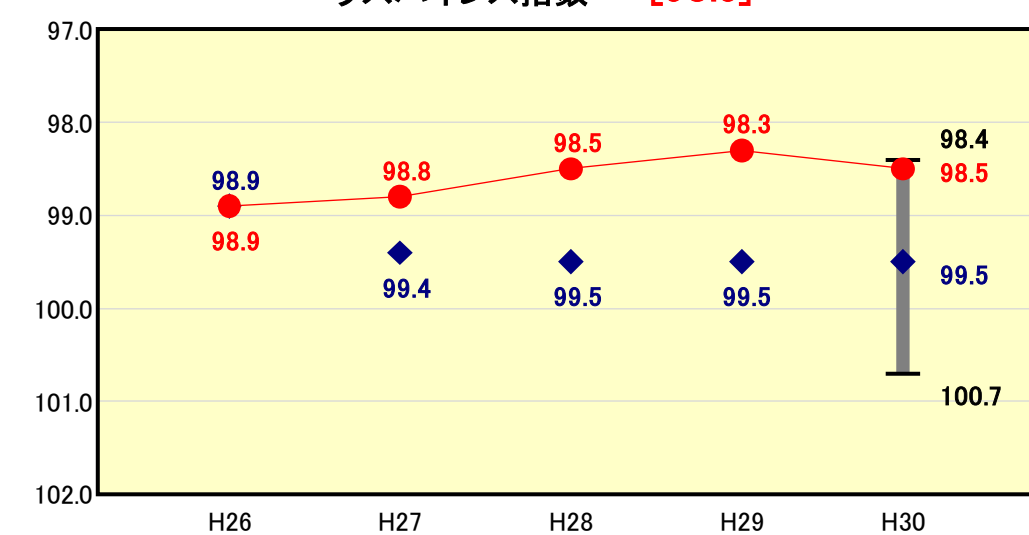


人口10万人当たり職員数の分析欄
 一般行政部門の職員数については、第六次定員適正化計画において、平成31年4月1日までの4年間で76人(2%)を削減(教育委員会からの移管人員及び災害復興に係る採用者を除く)、平成8年以降、6次にわたる定員適正化計画に基づき、1,100人を超える人員削減を達成した。次期行政改革大綱の推進期間の4年間(令和2~5年度)は、令和元年度の一般行政部門の職員数を基本としつつ、厳格な定員管理を継続するとともに、教育及び警察部門においても、法令による職員配置基準に留意しながら、一般行政部門に準じた定員の適正化に努める。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [98.5]

グループ内順位 2/10 都道府県平均 99.8



ラスパイレス指数の分析欄
 本県のラスパイレス指数は98.5と国よりも低くなっており、都道府県平均を1.3下回っている。本県の給与水準は、従来から人事委員会勧告に基づく改定を行うことにより、地域民間給与との均衡が図られている。また、特殊勤務手当の見直しや技能労務職の給与水準の見直しの他、世代間の給与配分を適正化し職務や勤務実績を給与に反映させるために給与制度の総合の見直しを実施するなど、給与制度全般について適正化に取り組んでおり、今後も引き続き給与水準の適正化等に努めていく。